

二〇一六年 九月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

根を養えば樹は自ら育つ

とういよしお
東井義雄

立派な樹が育つには、根が丈夫でなければなりません。根は土の中にあるので見えませんが、大木を支える大事な部分といえます。もしこの根がしっかりしていなければ、幹や葉が完全に成長する前に倒れてしまいます。これを勉強に置き換えてみると、基礎・基本が根の部分であり、たとえば基礎を勉強せずに難しい問題を解いても、実力もつかず学力向上も望めないでしょう。難しい問題は、多くのものが基礎をもとに応用問題として成り立っています。基礎を押さえて問題を解いていくことで、確実に実力がついて学力向上に繋がります。これは勉強に限らず、あらゆることに必ず基礎・基本があり、外に見える部分よりも見えない部分がとても大事だといえます。

みなさんも土台となる根をしっかりと養い、大きな樹（自分が目標とする姿）に育つよう努力してみてください。

今月の聖語

諸々の悪を作すこと莫れ、衆の善を奉行し、自ら其の意を浄くせよ。

『ダンマパダ』

悪い行いというのは、言動によって他人に害を及ぼすことです。悪い行いをすれば、まわりの人に悪影響を与えてしまいます。そして、その報いが別の形で自分自身に返ってくるのです。仏教ではそれを「因果応報」という言葉で表し、悪い行いは決して良い結果を生みません。反対に、善い行いをする事で、まわりの人にも良い影響を与え、自分にも良い形で返ってきます。また、お釈迦さまは他人の悪い行いを見たときは真似ず、善い行いを見たときは真似るように言われています。もし、まわりで素晴らしいと思える行いをしている人がいたなら、その人をお手本として同じようにやってみてはどうでしょうか。どうせ真似るのなら、善い行いを真似た方がいいはずですから。

宗教教育係